

## 江東の樹木 ②

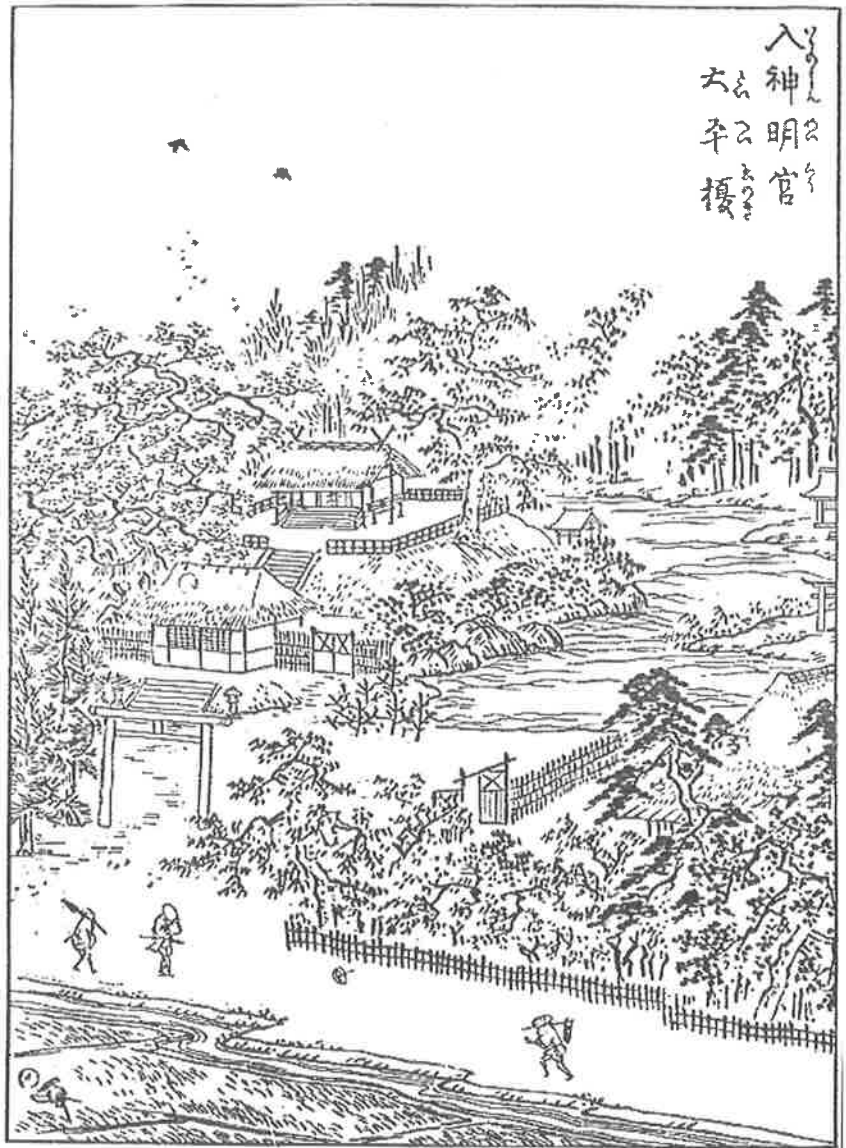
## 入神明宮と太平榎

江東区深川江戸資料館

江戸後期の地誌『江戸名所図会』に次のような記述があります。「神明宮 社殿は塚の上に建てられている。言い伝えによれば、大昔この付近は小島となっていて、周囲は海面だった。付近を通る船が風雨の難に遭った時、伊勢神宮の加護によって救われたので、その感謝としてここに神明宮を創建したという。その頃はこの地に船が多く泊まったので、船が入ってくるということから入と唱えたので入の神明宮と呼んだ」（口語訳）。

この神明宮とはどこにあったのでしょうか。亀戸天神や香取神社などがある亀戸3丁目の一角に亀戸西地区集会所がありますが、そこに昭和62年（1987）まで入神明宮がありました。

江戸時代より昔、中世の隅田川河口から亀戸周辺には牛島・柳島といった浮洲や島が点在し、海岸線が形成されていました。亀戸はその一角にあり、亀島・亀津島・亀津村ともいわれました。津や戸は入り口といった意味合いなのでしょう。『江東区史』（1997年）によればこのあたりは微高地で砂洲が発達し、墨田区の小村井から南に亀津島のある微高地が広がっていました。現在の江東区と墨田区の区境にあたる北十間川・横十間川は、中世の旧流路をもとにしていると考えられています。この頃の隅田川には現在の流路よりも東に支流が流れていたとされ、現在の北十間川・横十間川のもとの流れとあわせて、亀津すなわち亀戸が隅田川の河口部に位置していたとも言われています。このように亀戸は古代から中世にかけて、海浜の地であり隅田川の河口にもあたるといふ、漁村と湊としての機能を持っていたとも考えられます。



『江戸名所図会』より入神明宮大平榎（当館蔵）

上の絵を見てみましょう。冒頭の説明にもあったように、高い木でおおわれた境内の中に、小高い塚の上に社殿が建てられ、その手前には鳥居が見られます。右手には農家が見られますが、社殿も農家も藁葺き屋根。社前の往来には農具を担いで歩く人も見受けられて、のどかな農村風景が描かれています。

『江戸名所図会』の続きを読んでみましょう。「あみほしえのき網干榎という木が、社殿の傍にあり神木となっている。昔このあたりが海だった頃、漁師が網を



香取神社（亀戸3）

かけて干したのでこの名がついた。今もこのあたりの地面を掘れば、漁業の網につけるが出土するといひ、海浜だったことを示している。榎の木は、別名大平榎といひ、境内の塚を大平塚ともいふ」と、神明宮境内にあった榎の木について伝えています。

明治40年（1907）この神明宮の場所（その当時は天祖神社といった）から漁網につける土製の錘が発見されました。中央がやや膨らんだ形の筒状の錘で、網の先につけて漁に使用しました。形状から判断すると、平安時代から中世に使用されたものと考えられていますが、まさに『江戸名所図会』の記述にいう海浜の地・亀戸が立証されました。

さらに江戸幕府が編纂した地誌『新編武蔵風土記稿』では、「神明社」の項に「かつては榎の大木が神木だったが、木が枯れたときに天下泰平の文字の形に虫食いができて、泰平神明とも尊称された」とエピソードを伝えています。これらの史料から考えると、『新編武蔵風土記稿』が編纂された文化7年（1810）以降、榎はすでに枯死していたようですが、神木としての榎について紹介しています。中世には付近の漁師の信仰を集め、網を干したり、「天下泰平」の文字が現れたといった逸話が、後世まで伝えられました。

入神明宮は江戸時代から、近隣の香取神社が管理していましたが、香取神社は天智天皇4年

（665）、中臣鎌足が東国下向の際に開いたとされ、その折に太刀を奉納したという、きわめて古い伝承を持った神社です。また藤原秀郷が平将門追討の時に弓矢を奉納し、これが現在も続いている勝矢祭の起源となっています。香取神社は江東区亀戸・大島の定住の宮司がいない、多くの神社の宮司を兼務しています。

香取神社周辺は寺町が形成されていますが、たとえば普門院が大永2年（1522）に石浜（荒川区南千住、台東区橋場・清川付近）で創建され、江戸時代初頭の元和2年（1616）現在地に移転してきました。六阿弥陀詣で知られた常光寺が中世からの創建とされ、「萩寺」の名で有名な龍眼寺が応永年間（1394～1428）または天文3年（1534）の創建といわれており、江戸時代より前に創建され

た寺社が集中しています。寺町として寺院が増加したのは江戸以降だったとしても、亀戸が中世の時代から一定の農村として発展していたことをうかがわせます。また北十間川の北岸（墨田区）は吾嬭森・浮洲森といわれ、吾嬭神社がありますが、ここの神木・相生の楠も大木として知られていました。

網干榎・泰平榎といわれた入神明宮の榎についての話は、榎自体は江戸後期には姿がなくなっていますが、亀戸が海からの入り口であり、漁村があったという、江戸時代よりはるか昔の歴史を伝えており、史料がきわめて少ない古代・中世の江東地域の歴史を知る上で貴重な「証言者」となっています。



吾嬭神社の楠（墨田区）